

1. バストトリートメント照射前

- ① 乳輪・濃いシミ・ホクロは白いテープやマーカー等で完全に隠し、照射はしません。

2. バストトリートメント照射後

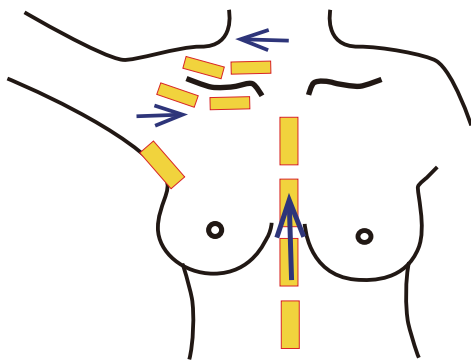
*フォトフェイスの記載内容と同じ

3. バストトリートメント照射手順例

*片側ずつ行います。必要に応じて2行程行います。

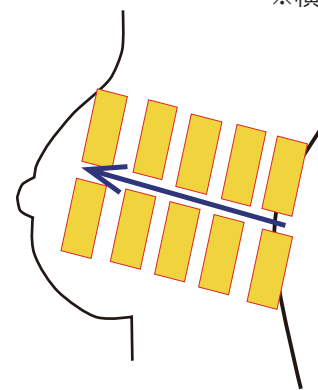
- ① 鎖骨上を外側に、下を内側に照射します。脇の下を照射した後、みぞおちから鎖骨方向に向けて照射します。
- ② 背中中の肩甲骨下から脇下を通り、バストを内側に寄せるように照射します。
- ③ バストの下部を持ち上げるように、引き上げながら照射します。
- ④ バストの上部をひっかけるように、引き上げながら照射します。
- ⑤ デコルテ部分を上に引き上げながら照射します。

1 鎖骨上→下→腋下→みぞおち



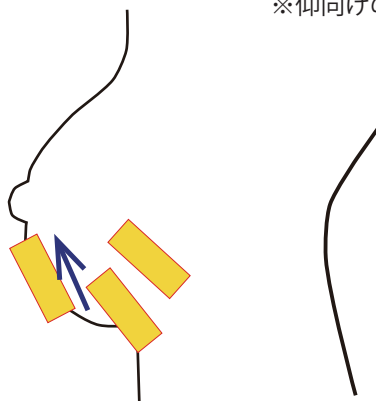
2 肩甲骨→バストのトップ

※横向きに寝た状態

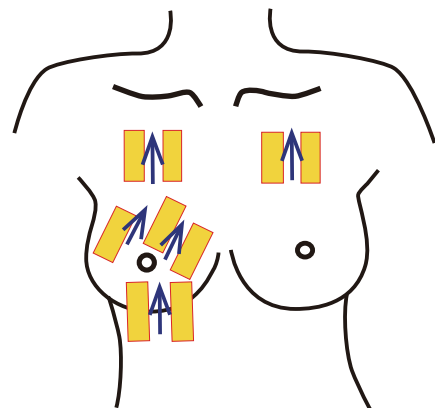


3 バスト周り下から上に

※仰向けの状態



4 バストのトップから内側→デコルテ



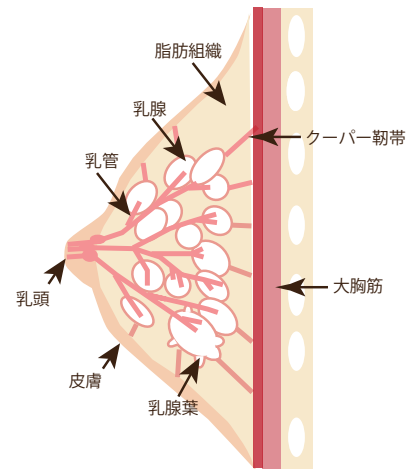
第5章 バストリートメント

バストにダメージを与えることなく、光を照射することでバストのリフトアップ効果が期待でき、自然で美しいバストを作ることができます。

1. バストの基礎知識

バストは90%の脂肪組織と、10%の乳腺組織から成り立っていると言われています。バストのボリュームは人それぞれですが、その重みを支えているのがバストの上の薄い皮膚と土台となっている大胸筋です。

- 皮膚 - すべてを包み込んでバストを支える役目
- 大胸筋 - 乳腺、脂肪組織を下から支えバストの土台となる筋肉
- 乳頭 - 乳房中央に突出し、乳汁が集まる乳腺の開口部
- 乳腺 - 乳腺葉と乳管という組織から成り立っています。ブドウの房のような形状をしており、15～20個ほどの房が集まって一つの乳腺となっています。
 - *乳腺葉：乳汁を作る組織
 - *乳管：乳汁を乳頭まで運ぶ管
- 脂肪組織 - 乳腺を守る役割があり、バストのハリ・丸み・柔らかさ・バストの大小がこの脂肪組織の量によって決まります。
- クーパー靭帯 - 乳腺全体を袋状に包み込むように支えているコラーゲン繊維の束。乳腺を皮膚や筋肉に繋ぎとめバストの形を保つ働きを担う。



※イメージ図

2. 女性ホルモン

バストの発育には、女性ホルモンの分泌が大きく関係しています。

バストの大きさは、脂肪細胞の数によって変わります。この脂肪の数は、乳腺の発達によって決まり、乳腺の発達には思春期から成人期にかけて多く分泌される女性ホルモンの分泌を促進させる必要があります。

100種類以上もあるホルモンの中で、美容（肌状態の変化）と関わりがあるホルモンで、女性ホルモンとは、2種類のホルモンの総称であり、「エストロゲン（卵胞ホルモン）」と「プロゲステロン（黄体ホルモン）」を

指します。これらは、一定の周期（約28日）で絶妙なバランスを保ちながら分泌されます。それにより、美肌や女性らしい体づくり、さらに妊娠や出産、月経周期など、女性の体のリズムをコントロールしています。

